

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
幼児心理学 Infant Psychology		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
発達心理学 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程(幼稚園教諭二種)科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟 3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「発達心理学 I」から引き続き、乳幼児期の発達の特徴に焦点をあて、学んでいく。発達著しい乳幼児期の特徴を理解し、子どものものの見方を理解した上でどのように働きかけるか、保育者を志す者として主体的に考察することが大切であるので、講義内容と自分が見聞したことを結びつけ、より精度の高い経験知を体得して欲しい。その結果として、乳幼児期の子どもたちの発達の様相が総合的に理解でき、気になる事例に対しても相談支援ができるようになることを期待する。</p>				
授業の目標				
<p>幼児教育に携わる者として、</p> <p>①乳幼児期の発達の特徴を理解し第三者に説明できるようにする。</p> <p>②あらゆる発達が、周囲の人間との相互的關係の中で促されていくことをしっかりと理解し、実習等の現実場面でもそのありようを確認できるようにする。</p> <p>③保育の専門家としてよりよい援助の方法を探求する視点を体得できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。単元の終了ごとに小テストを行う。実習“帰還”直後の授業回では各々の直面した事例の抱える問題点について学友と意見交換を行い、知見の交流をした上でレポートを作成してもらう。</p> <p>好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>				
学習の成果(学習成果)				
<p>講義・アクティヴ・ラーニングを経て、</p> <p>(1)乳幼児期の子どもたちの発達の様相が総合的に掌握でき、バランス良く幼児期の個人および集団の姿をイメージ・記述できる。</p> <p>(2)乳幼児が理解しやすい関わり方・援助の仕方について、色々な方法を想定できる。</p> <p>(3)基本的生活習慣の躰の方法や幼児期の遊びの意義について、理論的枠付けを基に第三者に具体的に説明できる。</p> <p>(4)保護者からの発達相談に対して、専門的な知見に基づいた支援ができるだけの知識と心得とを身につけている。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 乳児期から幼児期への発達の流れ 発達相談支援とは			
第2回目	身体と運動の発達：身体の発達 運動能力の発達 運動と「こころ」の発達との関係			
第3回目	身体と運動の発達：基本的生活習慣の意義			
第4回目	身体と運動の発達：子どもとあそび 発達におけるあそびの意義			
第5回目	身体と運動の発達：身体動作面で気になる子への支援			
第6回目	認知発達と学習：子どもの知覚の世界 子どもの描画能力の発達			

第7回目	認知発達と学習：記憶の発達と知識の発達
第8回目	認知発達と学習：思考の発達段階 子どもの問題解決 (※ディスカッション→次週、レポート提出)
第9回目	言語の発達：話しことばの発達 書きことばの発達 ことばについての知識 ことばの遅れに対する支援
第10回目	情動の発達：情緒の働き 情緒の分化と発達 子どもの情緒の特徴 情緒の発達を促すために
第11回目	欲求・動機の発達：欲求と動機のはたらき 欲求不満と葛藤 欲求不満耐性
第12回目	仲間関係の発達：社会的スキル 道徳性の発達を育むために
第13回目	性役割の発達：ジェンダー 役割期待
第14回目	パーソナリティの発達：性格の生涯発達と恒常性 個々の子どもの性格の理解
第15回目	児童期に向けて：幼児期がその後の発達に及ぼす影響について 幼児の心と生活にかかわるということ 養育者の気持ちを支える

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	15%	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。ディスカッションへの積極的姿勢を評価したい。
レポート	20%	「実習現場で見かけた園児の問題行動とその対処」「園児の遊びにかかわって気づいたこと」のいずれかについて論述。記述に客観性とバランスの良さ、アクティヴ・ラーニングを経た上での視点があることを期待する。
調査報告書		
小テスト	5%	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
試験	60%	学期末論述試験を実施する。学習の成果①～③が反映された、設問への適切な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」本郷一夫〔編〕（建帛社）。発達心理学Ⅰに同じなので、新規購入の必要は無い。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。

履修上の留意点・ルール

発達についての知識無くして保育・教育現場での適切な関わりは期待できない。従って、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。私語を慎み、真剣に受講すること。